



2022もぎたてりんご便 2月号①



「よい実践は思い出ではなく、ノウハウにする」

- 校内に卒業ソング「旅立ちの日に」が聞こえるようになり、卒業式が近付いてきたことを実感します。同時に、今年度のまとめと次年度に向けた準備をする時期になってきました。かつの校では、コロナ対策を講じながら、「個別の支援計画」や「個別の指導計画」を基に、保護者や関係機関と情報を共有する面談が始まりました。

1 保護者と共有する情報とは

- (1) 「こんなふうになりたい」という子どもの思い
- (2) 「こんな子どもになってほしい」という保護者の願い
- (3) 子どもの成長をイメージした具体的な指導目標・ゴール
- (4) 目標を達成するための指導内容・方法
- (5) うまくいった実践（ノウハウ・成果）



- 面談では、共感的な態度と肯定的な表現を心掛け、次年度や卒業後の生活への期待感を高めます。保護者とよくないことも言える、聞けるような信頼関係を築きたいものです。

2 関係機関と連携する上で大切なこと

- 連携で一番大切なことは、「情報の共有」です。連携はお互いの立ち位置を理解し合って、お互いのよいところを出し合うことが大切です。お互いにメリットがないと良好な関係を構築することが難しくなります。支援する人は変わっていくので、同じ質を保つためには、「個別の支援計画」（関係機関の役割を明確にして一貫した支援を行うためのツール）を見直して、次の人に伝えるのではなく、伝わるようにします。支援の成果は、支援を受ける人の思い×支援をする人の思いです。どちらかの思いが小さかったり、思いの形が違っていれば、支援の成果は期待できないこととなります。
- 連携とは、子どもの長所や可能性を発見することに意味があります。子どものよいところを見付けるといった視点が共有されたとき、子どもにとって安心した環境が整い、一貫した支援ができるようになります。子どもの顔は、周りの環境によってどんどん変化していきます。学校の教育活の一番の成果は、子どもたちの成長と笑顔です。



かつの校副校長 加賀谷 勝

